

ホームステイで楽しく交流

(9月14～21日)



姉妹都市スウェーデン王国レクサンド市から12人の中学生と引率教諭など6人が9月14日に来町し1週間ホームステイをしながら、町民との交流を繰り広げました。

15日のウエルカムパーティーでホームステイ先の家族から歓迎を受け、通訳ボランティアの東海大学生に手伝ってもらいながら、お互いに身振り手振りで自己紹介を交わしました。翌日からは、町内の施設見学をしたほか、当別、西当別中学校を訪問し、一緒に授業に参加したり給食を味わうなど、生徒と心を通わせることができました。また、商工会女性部に教わりながらいもだんご入りのシチュー作りをしたり、着付けをして茶道や折り紙作りに挑戦したりと、日本の料理や文化にも親しんでいました。

レクサンドの中学生は「当別の人と交流ができて楽しく過ごすことができた」と目を輝かせ、たくさんの思い出とお土産を持って帰国の途につきました。



タウン

トピックス

Town Topics

広報誌で紹介した写真またはデータを希望者に提供します。

お申し込み

情報課広報広聴係

TEL 23-3069

思い出いつまでも 閉校記念碑を建立

(9月17日)



今年の3月に閉校した中小屋中学校に、閉校記念事業協賛会が閉校記念碑を建て、同校卒業生など約30人が出席し除幕式が行われました。

小中学生や地域関係者など12人の手で、除幕された石碑には「流るる雲 渡る風 輝く星」と刻まれ、「中小屋の自然はとて素晴らしいものであり、去る雲、吹き渡る風のように中学校の歴史を閉じることとなるが、この学び舎から巣立った人々が当地を忘れることなく、天の川にきらめく星のように、いつまでも輝き続けますように」との願いが込められています。

NPO法人「まちの森」が誕生

(9月7日)



「つくし共同作業所」の3周年とNPO法人「まちの森」の設立記念式典が全久寺で行われ、関係者約50人が出席しました。

「まちの森」は、障がいを抱える人の社会復帰や社会参加を促進し、地域で当たり前のように生活することを支援していくことを目的に設立されました。

これまで「つくし共同作業所」に集う障がいを持つ人が、一人ひとりの夢の実現に向けて様々な活動に取り組んできましたが、今後は「まちの森」を中心に、より充実した活動に広がっていくことでしょう。

町長の日記

17年9月20日(火)

14日夜、スウェーデンのレクサンドから12名の中学生が教育長や教師らと当別町に来た。中学生の内1名は車椅子なのでアシスタントと共にホテルに泊って11名は1人ずつ町内のホストファミリーに落ち着いた。

両町が姉妹都市になって18年になるが、今回も15歳の中学生達を8日間受け入れる為に宿泊や食事の他に歓迎セレモニー、学校授業、レクレーション、イベント等に役場だけでなく交流協会や商工会そしてホストファミリー、更に中学校やサッカークラブ、日ハムファンクラブ、茶道教室など随分多くの方々に協力していただき、8日間に何百人もの町民がいろんな係りで交流をした。

初日はお互いにとまどっていた子供達もすぐに通訳抜きでも親しくなり最後のフェアウェルパーティーでは別れを惜しんで閉会後も帰らず、まるで卒業式のような光景だった。

その席で2007年6月17日に両町の交流20周年記念式典を当別町で行うことを確認した。

北欧の質素で小さな田舎町のレクサンドが福祉や環境に関して世界の最先端をいっている事に学ぶことが多く、両町の交流は今や両国の国際親善の窓口になりつつある。

毎年続いてきた夏至祭りだけでなくスウェーデン王国と手作りの国際交流がこんなに盛んな町が日本のどこにあるのだろう。

にもかかわらず、新聞は今回も記事にできなかった。当別が合併協議をしていた頃は合併に否定的な記事を載せていたのに今は合併で変るところの記事を追っかけている。

小さくても自立して埋没しないように頑張っている町民が多いのに当別の記事はいつも少ないように感じる。

当別からレクサンドへ行った時はあちらの新聞は何回も大きく報道してただけにレクサンドの中学生達に申し訳ない気がしてお別れ会の後、私まで悲しくなった。そして北欧から当別まで車椅子で来てくれた少年が帰りに感激の涙を流していたのが忘れられない。

当別町長衆亭俊考

広げよう ボランティアの輪

(9月10日)



町ボランティアセンターが主催したボランティア入門講座「盲導犬ってどんな犬」が「ゆとろ」で行われ、約30人が参加しました。

北海道盲導犬協会の長谷川満さんが講師を務め、目が見えないとどんな不自由があるかを参加者と一緒に考えたほか、盲導犬がどんな役割をもっているのかを分かりやすく説明しました。また、参加者が実際に目隠しをして手を引いてもらう「手引き」や盲導犬と一緒に歩くなど、目が見えない体験もしました。

参加者は「目が見えないととても不安になったけど、盲導犬と一緒にだとしっかり歩くことができた」と盲導犬の働きに驚いた様子でした。

当別青年会議所が創立25周年

(9月18日)



(社)当別青年会議所が並川ステラホールで創立25周年記念式典を開催し、同会OBや全道各地の青年会議所から関係者約160人が出席しました。

武田龍太郎理事長は「節目ごとに町の歴史に触れる事業に取り組んでいるこの会のたすきをしっかりと受け取り、未来につないでいきたい」と挨拶しました。

また、25周年記念事業として、町民劇「石狩川」を行うことが発表されました。この演劇は、町民参加の下、現在、猛稽古が行われています。

町民劇は11月6日(日)総合体育館で行なわれます。